

看護いばらき



公益社団法人
茨城県看護協会
Ibaraki Nursing Association

茨城県看護協会
かんごちゃん



No. 144
令和6年3月31日



水戸 偕楽園の梅とかんごちゃん

トピックス

- 保健師職能委員会ニュースレター P2・3
- ジェネラリスト リーダーシップ研修 P4・5
- ジェネラリスト育成プログラムをうけて P6・7
- 学会報告 P8
- シリーズ「心に残った一言」/突撃 リアル飯 P9
- 看護教員実態調査報告 P10
- 地区まちの保健室・薬剤師会コラボ活動報告/協会まちの保健室活動報告 P11
- 「看護補助者の仕事」紹介動画/理事会報告/編集後記 P12

会員数 (令和6年3月10日現在)

合計 15,891 名 保健師 354 名 助産師 597 名 看護師 14,089 名 准看護師 851 名

今年度の活動を振り返って

保健師職能委員長 光畑 桂子

新型コロナウイルス感染症の5類化に伴って、保健師の業務も通常に戻りつつある中、研修にも少しずつご参加いただける環境になったのではないのでしょうか？

看護協会の研修は自治体、産業、病院、大学など様々な分野で働く保健師が共通の話題で学び、情報交換できるチャンスです。この人脈は必ず業務に活かせると思いますので、皆様のご参加をお待ちしています。

7名全員集合できませんでしたが、最後のイベント&委員会で写真撮影！とても名残惜しいです。



研修会報告

保健師職能委員 松崎 容子

茨城県看護協会研修 No.90 「基礎から学ぶ！個別支援の方法と事例検討会」

日時：令和5年10月13日（金）10：00～16：00

会場：茨城県看護研修センター

参加者：12名

目的：個別支援の基礎を学び、事例への対応技術を身につける。

事例検討会を通して、家族や地域の対象理解を深める。

事例検討会を体験し、事例のとらえ方、事例への支援方法などを学ぶ。

内容：午前 自己紹介・名刺交換

【講義】「面接の基本・実践力UP事例検討会」～みて・考えて・理解して～

講師：公益財団法人 筑波メディカルセンター つくば検診センター 看護部長

茨城県看護協会 保健師職能委員長 光畑 桂子

DVD視聴「事例検討会デモンストレーション」

午後 事例検討会：(検討事例) 特定保健指導、精神保健

先輩保健師の事例や面接の紹介：保健師職能委員5名

総括：

導入として名刺交換を行い、参加者同士が挨拶を交わし会話も弾み交流ができた。

午前中、講義を通して、面接の基本や事例検討会の流れを学び、DVDの視聴により事例検討会の具体的な進め方が理解でき、午後から事例検討会を実際に行い、参加者が相互に実践力を高め合いながら、対象者へのより良い支援についてみんなで考えることを体験できた。先輩の保健師の経験した事例や面接について、対応の実際を、学びも含めて共有することができた。

研修参加後アンケートから、「改めて事例検討会を再確認することができた」「対象者の情報整理の方法や支援の展開に向けて参考となった」など感想がみられ、事例を支援していく中で抱え込まないために、多角的な視点で多様な意見を出し合うことのできる事例検討会は、支援の幅が広がることにも繋がることを学んだ。参加者全員より、内容の理解及び研修目的が達成できたとの回答が得られ有意義な体験と学びの研修となった。

茨城県看護協会研修 No.91 「複雑・多重課題事例から地域の課題抽出、事業化・施策化へ」

日時：令和6年1月30日（火） 10：00～16：00
会場：茨城県看護研修センター（4階大会議室）
目的：1）複雑・多重事例を共有し、地域の課題を抽出する
 2）地域の課題から、事業化するための方法を学ぶ

参加者：9名

内容：午前 講義 事例から地域の課題を抽出する意義
 講師 群馬大学大学院保健学研究科 佐藤由美先生
 午後 事例検討

「日本語に不自由がある独居の結核患者の事例」

総括：

群馬大学の佐藤先生からは、「複雑かつ多重課題事例を支援する事例検討会の手引き」をもとに、個別事例から地域課題を検討する必要性、個別課題から地域課題への検討・解決につながる事例検討の視点・ポイントなどについてご講演いただきました。

午後は午前中の講義での学びを生かし、事例検討を行いました。個別課題を地域課題として包括的にアセスメントし、地域の中で支援調整・社会資源を創出することが保健師の役割であることを事例をとおして学びを深めることができました。



参加者から事例を提出していただき経験豊富な保健師等様々な意見を出し合いながら、和気藹々と事例の理解を深めました。

イベント報告

自治体保健師・訪問看護師・看護教員の活動内容や魅力発信のためのイベント

日時：令和6年3月2日（土） 13：00～15：30
場所：つくば国際会議場 大会議室102
内容：・自治体保健師の活動内容や魅力発信のためのWebイベント
 ・自治体保健師・訪問看護師・看護教員との相談会

※保健師職能委員会では、「なんでも相談」のブースで保健師への進路や県職保健師・産業保健師の業務等について相談を受けました。

※市町村保健師については、市町村保健師連絡協議会の皆様、水戸・日立・土浦・筑西の4ブロックと美浦村、阿見町の6ブースに分かれて、市町村の業務や魅力について相談対応を行いました。

来場者：看護学生2～3年・保護者等 70名

保健師職能委員会担当の「なんでも相談」には、23名が訪れました。

実施状況：

自治体保健師への相談には、看護学生の2～3年生が多く訪れました。相談内容として、「県と市町村では保健師の仕事はどのように違うのか」「転勤や部署の異動はあるのか」「どのように受験する市町村を決めればよいのか」「行政保健師になる前に臨床に行った方がよいのか」「産業保健では、どのような業務をそこなうのか」等、様々な質問がありました。大学3年生にとって、受験先を2～3か月後には決めなければならないため、どのように選べばよいのか大きな悩みのように熱心に質問され、今回のイベントで市町村の様子や保健師の業務内容などを知ることができたことは、大きな収穫だったと思います。

また、他県の大学から出身地の茨城県に戻ってくるために情報収集に来られた学生さんも複数参加されており茨城県の魅力を改めて伝えることができ、良かったと感じました。今回のイベントで、保健師の魅力を学生さんや保護者の方にお伝えすることができた他、就活をする学生さんが疑問に思っていることを知ることができ、今後の保健師業務のPRに活かしていく良い機会となりました。



「ジェネラリスト育成プログラム」を 取材しました

「看護管理者導入講座 リーダーシップ研修」

講師：公益社団法人 東京都看護協会 会長 柳橋 礼子 先生

開催日：令和5年10月7日

場所：看護研修センター4F 大研修室

参加者：61名



茨城県看護協会では、令和4年度よりジェネラリスト育成プログラムを開催しています。看護職には、医療・看護を取り巻く状況の複雑化、多様化するニーズに対して、様々な場で専門職としてその能力や役割を発揮していけるようキャリアに応じた継続教育が必要となります。このプログラムは、急性期・慢性期領域の高度看護実践能力の育成と専門職業人としてのキャリア（関心性、自律性、計画性）の成熟を期待し、自ら考え行動できる専門職としての自覚に立ち、看護の専門性を十分に発揮し、安定的で質を確保した看護の提供を実現していくことを目的としており、計9日間の受講となります。

今回はその中のリーダーシップ研修を取材しました。

研修の目的

リーダー論からリーダーとしての基礎知識と行動や課題解決のための戦略について学びます。



研修の内容

- 看護サービスを提供する仕組みと組織化に必要なチームのマネジメントについて
- 代表的なリーダーシップ論について
- ミクロマクロな組織レベルでの役割や行動におけるリーダーシップ論の活用
- エビデンスに基づくリーダーとしての実践について

講義とグループワークで学びます

本研修を受講しようと思った動機をおきかせください

- ・子育てが一息つき、自分の時間が持てるようになり、自分のスキルアップを考えていた時に上司にジェネラリスト研修を勧めてもらったことで興味をもった。
- ・きっかけは上司のすすめ。研修のテーマや内容が幅広く、実践的な部分から組織運営に関する事など自分の看護師としてのキャリアアップにつながると思った。



受講しての感想をおきかせください

- ・たくさんの研修を受けた内容を今後の業務や看護師人生にどう活かせるか日々考えている最中ですが、一つひとつ活かせていける様にしていきたいです。
- ・救急看護などは実践力の強化、不足している知識の気づきができた。



活用の展望

- ・主任看護師として、患者・家族サービスの向上や後輩育成、病棟の活性化や多職種連携など、多くの役割を担っており、自身も活躍して働きやすい職場にしたい。また、看護職の社会的な活躍も期待されており、広い視野で物事を考えられるようこういった研修は有難いと感じる。

柳橋先生から皆さんへのメッセージ

これからリーダーの役割を果たしていきたいと考えている方やリーダーシップに興味のある方、ご自分の職場を良くしていきたいと考えている方などに受講していただきたいです。新しいチャレンジや組織の課題解決などで効果的なチーム活動を実践するための方策とリーダーシップを一緒に考えていきたいと思います。

ジェネラリスト育成プログラム

「ジェネラリスト育成プログラム」をうけて



総合病院水戸協同病院 **小林 学**

1 受講のきっかけ

今までは自分の興味のある分野の研修のみを受けてきましたが、より多方面から患者さんを見ることができるようになりたいという思いがありました。また、経験年数が上がるにつれて後輩への指導の場が増えたため、指導方法の学習や自身のスキルアップが必要であると考え受講しました。

2 研修で学んだこと

研修は、キャリアの成熟や専門職として質を確保した看護の提供を実現していく事を目的としており、学ぶことが多く充実した研修でした。ジェネラリストとして必要な臨床的ジレンマや救急看護からエンド・オブ・ライフの研修・管理者としてのリーダーシップやキャリアデザインのことなど幅広い分野の研修がありました。臨床でもリーダー業務を行うことが増えたため、リーダーシップやファシリテーションの重要であると学びました。

3 研修後の変化・効果

後輩のケーススタディを指導する場面があり、今までは自身が行ってきた研究やケーススタディの経験を基に指導を行って来ました。しかし、今回の研修を受け、論文の書き方の指導も行うことができ、より良いケーススタディを共に作成することができたと感じました。

また、私は救急外来・集中治療室での勤務であるため、リーダー業務や救急対応をする場面が多くあります。その際に今回学んだ知識を臨床で活かすとともに、リーダーとしてのファシリテーションを行うことや後輩への指導を根拠から分かりやすく説明することができるようになりました。

一つのことだけではなくジェネラリストとして学ぶことによって、多方面から物事を理解することができるようになり、アセスメントの幅が広がったように感じます。研修受講後は、ジェネラリストとしての自覚をもち、患者様への看護の質を高めることができるようになったと感じます。

まだまだ経験不足なところは感じておりますが、今後も臨床や自部署の中で同僚と共に学習し成長していきたいと思っています。



4

これから受講を考えている人へ

看護師は生涯学習と言われており、日々医療は進化し私たちの学習を欠かせない職種だと考えています。自身のスキル・学習はもちろん、後輩への指導を行っていきます。そのような中で、今回の研修を受けることによってそれらを網羅することができる研修であると感じました。またジェネラリストになることで、様々な視点をもち患者さんに対応することができ、より良い看護を提供することができると感じます。自身のスキルアップや看護の質の向上を目指す方には受けてほしい研修です。



「ジェネラリスト育成プログラム」受講前後での変化について

総合病院水戸協同病院 看護副部長 大槻 勝明

当施設は二次救急医療施設であり、理念として、「心のこもった医療を提供し、地域の医療と人材を育成する」ことが掲げられています。心のこもった医療を提供するためには、豊かな人間性は勿論のこと、如何に人材を育てていくかが重要になってくると考えております。看護部においても積極的にリーダー教育を行っておりますが、経験を重ねると外部研修での学びは不可欠となります。彼は、新卒より ICU に所属し学習を深めてきましたが、中堅となり、臨床実践においても自ら実践し指導する場面も増え、個々のスタッフのレスポンスにジレンマも生じていたように思います。今回のジェネラリスト育成プログラムにおいては、自身が学びを深めていきたい救急看護関連の研修のみならず、看護管理導入講座としてリーダーシップ研修、キャリアデザイン、リーダー看護師のためのファシリテーションなど多岐に渡っており、多角的な視野で自分自身を見つめ直す良いきっかけになったと考えます。個々のスタッフが能動的、自律的に学習し行動していけるようOJTのなかで如何にサポートしていけるかが“鍵”となってくると考えています。彼の日々の実践のなかで、リフレクションしながら少しずつではありませんが変化していると感じています。彼のように積極的に研修に参加するスタッフが一人でも増えるようサポートしていきたいと思えます。

賛助会員広告

新生活、始めるなら古河日赤で

フルタイム勤務希望者 歓迎！

当院看護部は、業務の標準化・効率化を促進し
タスクシェア/シフトで看護に注力できる環境を作っています。
患者さんに寄り添う看護を目指したいあなた。
古河日赤で働いてみませんか？

採用は通年で実施しています。見学も可能です。
詳細はホームページをご覧ください。



[お問い合わせ] 〒306-0014 茨城県古河市下山町1150 TEL:0280-23-7111 採用担当:人事労務係

令和5年度茨城県看護研究学会

キャリアを紡ぐ

～私が誇る看護と働き方の多様性～

- 日時 令和6年2月7日(水)
- ところ 水戸市民会館
- 参加者 458名

特別講演 「バカボンパパに学ぶ苦悩の人間学

～寄り添うコミュニケーションの本質はここにある～

講師 佐藤 泰子 氏 京都大学大学院 人間・環境学研究科 研究員

座長 池袋 昌子 氏 茨城県キリスト教大学 看護学部・看護学研究科 教授

ザ・関西人と言いたくなるような、人を楽しませる軽快な語りで笑いあり、涙ありの時間を忘れさせる講演でした。「人はなぜ苦しみ、そこからどのようにして新しい1歩を踏み出すのか」をバカボンのパパの言葉を手掛かりに「苦しみと緩和の構造」を分かりやすく解説されていた。また「妖怪人間ベム」をモチーフに生きる意味を考えさせられた。永遠の命がある妖怪が、なぜ限りある命の人間になりたいのか。人間の死は必ずやってくるものである。限られた時間をどう生きるのか、だからこそ「今」なのだと思いの深さが感じ取れた。

生きる意味がどこかにあるのだとしたら、それはだれかとの間(あわい)にある。人の存在の意味は「～として」という構造の中にしかない。親として、子として、看護師としての自己がいる。「～として」が成立するためには「だれか」がいる。他者との間(あわい)が、自己の居場所となり、自己の居場所を確保するために、人はだれかと生きようとする。人とのつながりこそが、生きる意味なのかと講演を聞き、腑に落ちたと感じる瞬間でした。講演後には拍手がなりやまず、参加者からは「とてもよかった」「聞いてよかった」という感想をたくさん寄せていただきました。



ミニレクチャー 「みつけよう！身近にある研究テーマ」

講師 萩野谷 浩美 氏 常磐大学 看護学部 准教授

日頃感じている疑問や気になっていることが、研究のテーマになる。「もしかしたら私もできるかもしれない」と思って、はじめの一步を踏み出してみよう。



ユードムホール(中ホール)にて口演発表19演題小ホールにて示説発表19演題の発表がありました。

《発表者の声》

- ・データをまとめたり、しっかり言葉にする、伝えるように言葉にすることが難しかった。もともと言葉にすることに苦手意識があったが、大変だったが取り組んでよかった今は思える。今後活かしていきたい。
- ・きっかけは師長に、普段とっているデータをまとめたら研究になるのと言われてたことだが、実際にまとめてみて、身近なことが研究になることが分かって良かった。
- ・綺麗な会場で発表できて気持ちがよかった。モチベーションが上がりました。
- ・発表は5回目で毎年参加しているが、参集で会ができて、参加者の前で発表できて楽しかった。



- ・緊張はしたが、伝えたいことはしっかり伝えられたと感じた。
- ・発表して、質問を受けると手ごたえを感じられた。

《参加者・学生の声》

- ・学校の授業の一環として参加することになったが、学生と看護師の視点の違いが分かって勉強になった。
- ・実習中だが、看護師の活動が分かって良かった。
- ・特別講演がとても良かった。参加して良かった。
- ・病棟で行っている身近なことが研究されていて興味がわいた。

【シリーズ】

仕事をしていて、 こころに残った一言



総合守谷第一病院 早川 実来

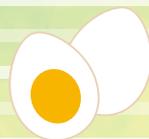
内科病棟に勤務し様々な方の人生に携わせて頂き、どうしてもその方にとっての最良の看護が提供できるのか自問自答しながら勤務をしています。全盲で高齢の女性が入院され、夜間大声で誰かを一晩中呼び続ける事がありました。夜勤担当時、ご挨拶しながら手を握ると「暖かくて優しい手ね、安心する。見えないけどあなたが優しい人だと伝わるわ、ありがとう」と涙を流しながら感謝をして頂きました。その夜は大きな声を上げることなく、数日ぶりに朝まで入眠することができました。身体のケアだけでなく心のケアも重要だと改めて感じ、今でもこの出来事は私の心に深く残っています。これからも一人ひとりの心に寄り添う優しい看護を行いたいです。



ありがとう 神栖済生会病院 香取 有紀

昨年、夜間救急の当直で直腸癌末期の60代女性が腹痛と便秘で受診しました。今後訪問診療を導入していく予定でしたが、食欲低下もあり緊急入院となりました。患者様を病棟へ案内する際、ご主人と私に「ありがとう」と感謝の言葉を伝えてきました。コロナ禍で面会制限があり、私には最期の別れのように聞こえ涙が流れてきました。数日後、患者様は家族が看取することもできない状態で亡くなりました。もっと早く在宅療養できる環境があればと悔やみます。癌の患者さんは、末期でもADLが自立しているため在宅療養の判断が遅れがちです。人生の最期を家族や大切な人と過ごせるよう、社会資源の活用や家族へのサポートを考えていきたいと思います。

2024年リアル飯



バランス最高!
おかずがたくさんで
どれから食べるか迷います。



炙り卵のお弁当
私にも作って
いただきたい♡

★2024年リアル飯 募集中!

投稿先: ibakango@olive.ocn.ne.jp

①ひと言コメント! ②JPEG形式で写真添付



令和5年度 看護教員に関する実態調査報告 ※一部抜粋

調査目的：看護教員の働き方や処遇等に関する実情を把握し、本会事業の推進や関連団体等への政策・要望活動を行うための基礎資料の収集を目的とする。

調査日時：令和5年12月5日（火）～ 令和6年1月10日（水）

調査対象：茨城県看護教員連絡会会員155名 ※本調査を実施するにあたり、茨城県看護教員連絡会にご協力いただきました。

調査方法：質問紙による選択式（一部記述式）

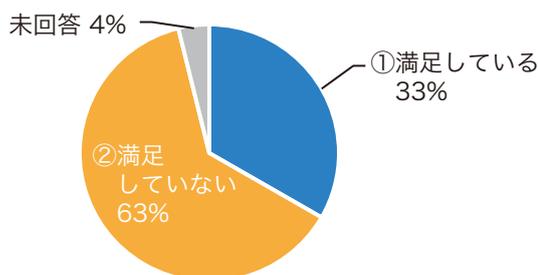
提出方法：返信用封筒により茨城県看護協会へ提出

回収率：50.3% 78/155名

1 回答者の年齢構成

年代	人数
20代	0
30代	8
40代	26
50代	27
60代	14
70代	3
計	78

2 現在のご自身の給料に満足していますか n=78



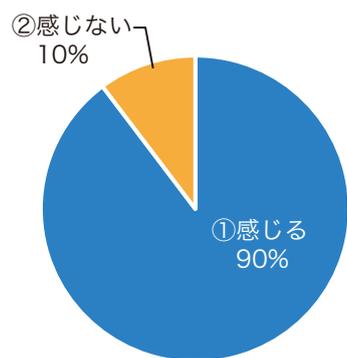
3 時間外勤務はありますか※月平均 n=78（人）



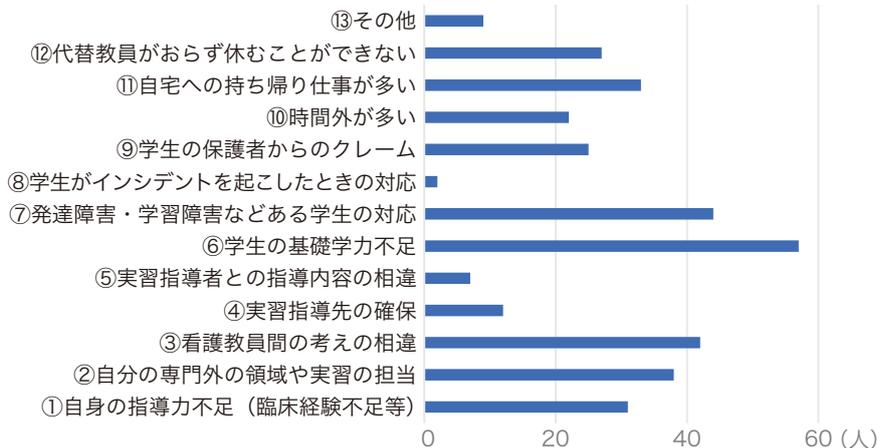
4 時間外勤務は申請・承認されていますか(時間外有) n=64

項目	人数
①全時間申請・承認されている	4
②全時間申請しているが一部しか承認されていない	5
③全時間申請しているが全く承認されていない	1
④一部しか申請していない	15
⑤全く申請していない	18
未回答	21
計	64

5 教員不足を感じますか n=78



6 業務の中で大変苦労していることをお聞かせください n=78 ※複数回答



「看護教員魅力発信イベント」を開催いたしました

令和6年3月2日（土）につくば国際会議場において「看護教員魅力発信イベント」を開催いたしました。茨城県立医療大学、茨城県立中央看護専門学校、茨城県立つくば看護専門学校にご協力いただき、資格の取り方、働き方、学生との関わり方など、魅力を伝えていただきました。



看護教員の最大魅力は、看護師を目指して入学した学生が立派な看護職として巣立っていく姿を見ることができることだね。卒業後、経験を積んで実習指導者として、学生を迎え入れてくれたら感動しちゃうよね。



まちの保健室事業

1 常陸太田・ひたちなか地区では、薬剤師会と共催で健康相談・お薬相談を実施しました。



実施場所：道の駅ひたちおおた

日時：令和6年2月14日（第2水曜日 13:30~16:00）

まちの保健室では、地域住民が乳幼児から高齢者まで、健康で安心して暮らすために、出産・子育て・疾病・介護等様々な問題を看護師に気軽に相談する「場」を提供しています。

当地区では、昨年11月から毎月2名の薬剤師が参加し、一緒に来場者の対応をしています。薬剤師がいることをPRするため、降圧剤内服している方の対応をした看護師が薬剤師を紹介し、お薬相談をして頂くなど工夫しました。

また、血圧測定・体脂肪測定者で混み合うと薬剤師が手伝う場面や、薬剤師会持参の肌年齢測定器に興味を持つ来場者もいて、にぎわう場面もありました。来場者からは、薬剤師の他、食事についてアドバイスが欲しいので栄養士もいてくれるといいね。といった声もあり、地域の方々の健康関連の不安に対応するには、多職種連携できるとさらに良いのではないかと考えます。まずはこの共催を定期的に続けることで、地区会員や薬剤師たちで地域に求められる形や運用について考えていきたいと思えます。

常陸太田・ひたちなか地区
担当理事 三本松 まゆみ



2 茨城県保健衛生会館での「まちの保健室」の活動視点は「フレイル予防」です。

~~~~多職種との連携事業~~~~

（看護協会・理学療法士会・栄養士会・歯科衛生士会）

3年前のコロナ禍。「外出自粛」が度々続く中、高齢者が外出しなくなったらどうなる？一人でもできること・外出しなくてもできることは何だろう？・・・と企画したのがフレイル予防の紙面上ウォーキング。1年目は東海道五十三次、2年目は奥の細道。そして今回は四国お遍路。毎日の生活歩数を記録し、半年間自分のペースでゴールを目指すもの。そして年2回の講習会ではストレッチ法や口腔ケアやフレイル予防の食生活の話。さぁ～4年目はどこへ行こう？

### 【参加者の声】

- ・運動をするきっかけになった。
- ・目的があったので歩けた。 ・楽しく歩けた。
- ・ゴールできなかったので次回は頑張る。



## 3 地域イベントと常陸太田・ひたちなか地区とのコラボを実施しました



令和5年8月25日（土）  
なかひまわりフェスティバル2023

末梢血管年齢測定を中心に昔遊びや簡単筋力トレーニング・しっかり食べてフレイル予防・オーラルフレイルに延べ300名が参加。



令和5年10月8日（日）  
ヘルスポ・フェス in ごだい

救護の他、血圧測定・末梢血管年齢測定・握力測定・健康相談を実施し55名が参加しました

保健衛生会館まちの保健室  
担当 中山 友子（保健師）  
mail : zaitaku1@ina.or.jp



## 「看護補助者の仕事」紹介動画を作成いたしました

看護の現場を支える「看護補助者の仕事」の紹介動画を作成いたしました。（業務委員会作成）  
本会ホームページにおいて公開しておりますので、看護補助者の人材確保等にご利用ください。



↑看護の現場を支える  
「看護補助者の仕事」  
紹介動画はこちら

## 令和5年度 第6回 理事会報告

### 第6回 令和6年2月16日(金)

#### 【協議事項】

- 1 事業報告(10月～12月)
- 2 令和6年度事業計画(案)について
- 3 令和6年度教育計画(案)について
- 4 予算執行状況について
- 5 令和6年度予算(案)について
- 6 茨城県看護協会「選挙及び選挙管理委員会」及び「推薦委員会」規則の改正(案)について
- 7 令和6年度優良看護職員表彰候補者の推薦について(案)
  - ①茨城県知事表彰
  - ②茨城県看護協会会長表彰
- 8 令和7年度日本看護協会代議員及び予備代議員理事会推薦枠について(案)
- 9 令和6年1月能登半島地震に係る「愛の募金」を活用した災害に伴う寄付(案)について

#### 【報告事項】

- 1 公益社団法人「事業変更(停止・追加変更)」に係る提出書類について
- 2 茨城県看護研究学会報告(2/7)
- 3 令和6年1月能登半島地震に係る災害支援ナース派遣状況について
- 4 令和6年度会議等行事日程について



### 編集後記

3年振りに対面開催された看護研究学会の取材に行きました。昨年7月にオープンした水戸市民会館での開催で、発表を終えた方の清々しい晴れやかな表情が印象的でした。

さて、今回のかんごちゃんは日本三名園である偕楽園を訪れました。茨城の県木「梅」、一年の中で最も早く花を咲かせる種の一つです。また、その生命力の強さから病気を退ける花、長寿を願う縁起の良い花の一つといわれています。

かんごちゃんの旅、続きます。

2024年 リアル飯 募集中! >>>

投稿先: [ibakango@olive.ocn.ne.jp](mailto:ibakango@olive.ocn.ne.jp)



茨城県看護協会  
かんごちゃん